



2021.6
vol.226

大谷の「今」を伝える。「未来」へ繋げる!

北門より智身館をのぞむ



earnest しんけん

学校長 飯山 等

新入生の皆さん、大谷生としての生活はいかがですか?皆さんを迎えて、気持ち新たな毎日となっていることを喜んでます。昨年の同時期は新型コロナウイルスの世界的拡大、日本全

体に向けて発令された緊急事態宣言、そして学校一斉休校という、未曾有の事態の直中にありました。先行きの見通せなさ、一年を経過しても変わることなく、今は新たに変異ウイルスの急激な拡大が大きな脅威として報じられていて、まだまだ生活のすみずみまで細心の注意を払って対処していかなければならない日々が続いています。

この感染症に直面する以前は、この稿が皆さんの手に取られる時期の学校生活を予想しながらPCに向かって想を巡らせていました。その予測される大谷の状況は、言わば手に馴染んだボールの感触のごときでした。しかし、この感染症はそのことを許さなくさせています。今日も変事なく皆さんが学校に来られる、そのことを奇跡のような日として、いとおしく感じています。皆さんがこのOTANingを手にしておられるとき、世界が、そして大谷がどのような状況の中にあるか予測しがたいことですが、続く困難の中にあつて、現実には怯えず、自分の内に閉じこもらず、精神を広く開いて、やわらかなところで、つながりのちを生き合うわたしたちでありたいと思っています。

樹木希林という個性的な役者さんがいました。2018年9月に75歳で亡くなりましたが、15年余に及ぶ癌の病軀を受けとめての生活のなかから発せられた、滋味豊かな味わい深い言葉を、私たちに多く残してくださいました。その樹木さんから教えてもらったことの一つに、「おもしろがる」ということがあります。「面白い」、「面白いと思う」。面白がるというと、ふざける、茶化す、弄ぶということを連想して、不謹慎なように感じますが、樹木さんの言う「面白がる」ということは決してそういうことではありません。あらためて辞書を開くと、「面白い」とは、「一説に、目の前が明るくなる感じを表すのが原義で、もと、美しい景色を形容する語」とあります。一見するだけでは、何も目を引くものはない、むしろ屈辱な景色が目の前に広がる。また、殺伐として光り少ない前途に足を竦ま

せ、辛さに目を伏せて、何事も見たくないと心を閉ざし、そのわずかに残る光りをも消してしまふ。まさにそのような場に直面したとき、それを「面白がる」。頭を上げて、眼を開き、光りを当てる。そして事態を私意によって取捨選択せずに、まるごと真っ直ぐに受けとめる。そのような心の在り方として、面白がるということはある。そうすることで、「目の前が明るくなる」。事態は新たな光りをおびて、それまで「否」に覆い尽くされていた景色が、私にやわらかであたたかな「肯」をうながし、もたらす。彼女は自らの病苦という《難》を通して、かけがえのない《人生》に出遇い得たことを、深い謝念を込めて受けとめているのです。

私自身、このコロナ禍の中でさまざまなことに臨むとき、その「おもしろがる」ということを胸に置くように心がけてきました。そしてそこに生まれる「遊ぶ」こころをなくさないようにと思ってきました。このような厳しい状況のとき、「遊ぶ」と言えば、その不真面目さを糾されることになるのですが、「ハンドルの遊び」という語が表現しているように、事態の衝撃をダイレクトに受けなくて、やわらかく受けとめようとの姿勢です。ものごとに向き合い、取り組み、対応する場合に、その「遊び」の気持ちを持つこと。密着しすぎずに距離を取る。ゆとりを持つ。ゆとりをなくすと、深刻になってしまいます。しばしば「深刻な危機」と連結されるように、「深刻に考える」のは、事態を危機的に、暗く捉えて、その対処を考えてしまいます。そのように深刻seriousに考えるのではなく、「真剣に考える」。私は深刻と真剣の精神の有りようは大きく異なると考えています。深刻と真剣の二つの語を和英の辞書を開くと、どちらもはじめにseriousの語を載せています。そして、真剣の語には、seriousのつぎに、earnestの語が載っています。earnestとは、「誠実に、厳粛に、心から考える」と説明されています。この説明に触れて、「真剣に」とは、眉間にしわ寄せしてのことではなく、事態をやわらかく受けとめ、愁眉を開き、誠実に、そして謙虚に、一つ一つに向き合い、取り組んでいくことなのだと思ふとあらためて心にとめたことです。(そのように考えたとき、この「しんけん」の語に「真剣」の字を当てることにはいささかの違和感を持ちますが、…。)

この厳しい事態にしんけんに臨み、謙虚に応じてゆく。そのようなわたしたちでありたいと思います。